

<総合医療センター>

管理用連番	施策番号	施策	ご意見・ご指摘内容
1			全体的に病院が取り上げるべき戦略に難点があると思える。さらに病院戦略は各科戦略へと展開すべきだと思います。
2			当該医療関係者が、コロナ禍の中で、健康を損なうことなく、無事に1年を過ごせ、業務を遂行できることを期待しています。令和2年度は、数値目標よりも安全に1年を過ごせることを祈っております。
3			特に意見はございません。 各セクション別に取り組項目を定め、評価とともに目標達成に努力されておりますことに感謝いたします。
4	1-(1)	救急医療の強化	公立病院における救急の役割は、高度救急医療もさることながら、一次二次救急に重点を置くことを望みたい。
5	1-(1)	救急医療の強化	三次救急患者を数多く受け入れており(2048件、目標の151.7%)、大変良い結果だと思います。三次救急以外の受入数が目標に届いていませんが、三次救急だけでも忙しいので三次救急以外は目標を減らして他の病院に回しても良いのではないのでしょうか。 マンパワーや病床も限界があるので貴院は三次救急に特化したほうが良いのではないかと思います。
6	1-(1)	救急医療の強化	受入体制や応需手続の整備以前に目標値の設定が先行しているため、目標達成が無理となる結果となっている。地域のニーズとしても目標値程度の数値は必要であるため、当該達成のためのさらなる体制整備を具体的に実行されたい。
7	1-(1)	救急医療の強化	救急患者の受入数(三次救急)は前年度比171人増加で2,048人、目標達成率151.7%、ドクターカーの出動回数660回で目標達成率330%と救急医療に大きな寄与をいただいていることに感謝申し上げます。 三次救急以外の受入については、一次及び二次救急受入医療機関との関係もあり、全てを受け入れるのが困難な部分があるのは理解いたします。
8	1-(1)1	救急医療の強化(三次救急)	ICU・HCUの救命算定率及び救命患者受け入れ数を向上させるための高いベッドコントロール機能の充実が求められる。
9	1-(1)1	救急医療の強化(三次救急)	ドクターカーの出動回数目標値設定は、実績に合わせて設定すること 二次救急の体制整備を急ぐこと
10	1-(1)1	救急医療の強化(三次救急)	ICU救命算定率の未達成は、届出施設基準が救急救命入院料であるため、やむを得ないでしょう(急性期一般病床からの転棟については算定できない)。稼働率の維持が重要であると思われます。
11	1-(1)2	救急医療の強化(三次救急以外)	三次救急以外の救急にも積極的に取り組む姿勢を示しているのは、賞賛に値します。
12	1-(1)2	救急医療の強化(三次救急以外)	三次救急以外の救急患者の受入数について、自己評価を「×」としているが、今年度から目標値を上げていること、課題が明確になっていること、前年度比較では微減であることを考え、「△」として良いのではないかと。
13	1-(2)	周産期・小児医療の充実	PICU6から8床の増加に伴い、新規入室患者の増加が見込まれたが、外部要因により低下しており、受け入れ側の体制強化が望まれる。
14	1-(2)	周産期・小児医療の充実	周産期・母子医療センターについては分娩件数や母胎搬送も増加しており、頑張っていると思います。PICUの減少は致し方ない状況もあるかと思えます。引き続き、頑張ってくださいと想います。
15	1-(3)	地域がん診療連携拠点病院機能の強化	人的体制の強化が図られたが放射線治療の実績増加がみられず更なる努力が求められる。

<総合医療センター>

管理用連番	施策番号	施策	ご意見・ご指摘内容
16	1-(3)	地域がん診療連携拠点病院機能の強化	がん手術件数・薬物療法とも増加しており、良い傾向だと思います。放射線治療専門医と医学物理士が確保できたとのことで今後放射線治療の増加を期待しています。
17	1-(3)	地域がん診療連携拠点病院機能の強化	放射線治療の症例数を伸ばす工夫の具体化
18	1-(3)	地域がん診療連携拠点病院機能の強化	放射線治療患者数が少な過ぎる印象があるが、やむを得ない理由があるのでしょうか？
19	1-(3)	地域がん診療連携拠点病院機能の強化	外来化学療法室の充実が望まれるところですが、一方では疾患によっては入院化学療法の方が収益的に有利なものがあります。そのあたりの検討はされているのでしょうか？
20	2-(1)	地域医療支援病院機能の強化	地域連携の在り方を医療機関の訪問だけで模索するのではなく、地域支援病院としての在り方を地域の住民、通院患者と共に考え、役割分担を明確にして、最終的に地域に頼られる医療機関を目指してほしい。
21	2-(1)	地域医療支援病院機能の強化	紹介率を80%まで伸ばす工夫
22	2-(1)	地域医療支援病院機能の強化	紹介率については目標値を達成できませんでしたが、前年度に比べ微増しており、また逆紹介もかなりの実績を上げており、頑張りを感じさせています。
23	2-(2)	感染症対策の推進	新型コロナ対応のため、さらなる高度な院内感染対策マニュアルを策定していると思われるが、市民の安心感の確保等のために、当該マニュアルは公開すべきであろう。
24	2-(2)	感染症対策の推進	連携先とのカンファレンスや病院職員による講演会の目標値「4回」はあまりにも少ないと思える。
25	3-(1)	医療安全対策の充実	インシデント・アクシデントの数の目標値設定は、他の医療機関との比較をして決めるべきではないかと思える。
26	3-(1)	医療安全対策の充実	医療安全研修会の参加率96.9%と高いことは評価されますが、100%をめざしていただきたいと思えます。
27	3-(1)	医療安全対策の充実	医療安全の取り組みは目標値を上回っており素晴らしいと思いますが、医師の実績がどの程度かが問題となります。今後はその点にも言及すると良いと思えます。
28	4	教育・研修の充実	教育研修センターの役割を再度議論すべきではないかと思える。
29	4-(3)	認定看護師、専門看護師の育成・活用	認定看護師の確保は医療レベルの向上、診療報酬算定につながるのでもさらに充実をめざしてください。
30	4-(3)	認定看護師、専門看護師の育成・活用	専門看護師育成を義務として、部門(部署)別に指示
31	4-(3)	認定看護師、専門看護師の育成・活用	看護師については、看護実践能力向上研修は元より、新人、看護教育指導者、看護管理者など個別の教育体制がどの程度行われたのか実績値がほしいところです。また、看護師以外のコメディカル(医療技術職員)に関しても、各種認定資格の取得や研修会開催・参加促進などの取り組みが重要と思われます。
32	4-(3)	認定看護師、専門看護師の育成・活用	認定看護師に資格手当を出しているのは一般に3割程度の医療機関であるとされる。公的機関での手当はなかなか困難であろうが、なんらかの形でキャリアアップや努力に報いるようなしくみを検討する必要がある。
33	4-(3)	認定看護師、専門看護師の育成・活用	高度で質の高い看護(医療)提供のためには、認定看護師、専門看護師の育成・活用は必須と考える。今回は、新型コロナウイルス感染症においても感染管理認定看護師が活躍している。認定看護師が活躍できる職場環境・処遇等整備し、希望する看護師が増えることを期待する。

管理用連番	施策番号	施策	ご意見・ご指摘内容
34	5-(1)	手術部門の強化	目標値自体が正当かどうか、さらに診療科ごとの数値目標が重要だと思います。
35	5-(1)	手術部門の強化	手術件数全体としても4500⇒4960と増加しており、努力の賜物と思います。手術数の増加はHCU院内の稼働などとも連動してくると思われるので、各部署が連携して効率的な運用をめざしてください。
36	5-(2)	診療報酬への戦略的な取り組み	査定率削減には現場の医師とともに、医事課請求業務の一層の質向上が求められる。
37	5-(2)	診療報酬への戦略的な取り組み	査定減の取り組みは重要であり、その積極的な取り組みは賞賛に値します。しかし、査定率だけにとらわれ、請求に消極的になるのは避けなければなりません。また、保険ルールに則らない診療などが繰り返されることもあり、医事委員会などの強力な指導が必要と考えます。
38	5-(2)	診療報酬への戦略的な取り組み	査定減が前年よりさらに悪化しているにもかかわらず、分析が十分でないため、体系的な対策が立てられず、対応が不十分となっている。民間病院の事例等を参考に実効性の高い対策を構築することが必要である。
39	5-(2)	診療報酬への戦略的な取り組み	実施した医療行為が適正に請求できるよう査定減に努められているが、事務職のみではなく、医療を提供する医師をはじめ、医療チームが査定理由を理解し対応することが必要であると思います。
40	5-(3)	病床の効率運用	手術件数全体としても4500⇒4960と増加しており、努力の賜物と思います。手術数の増加はHCU院内の稼働などとも連動してくると思われるので、各部署が連携して効率的な運用をめざしてください。
41	5-(3)	病床の効率運用	病床稼働率上昇が急務。対応するチーム編成が必要
42	5-(3)	病床の効率運用	平均在院日数の短縮促進は重要ですが、そのやり方を工夫する必要があります。もちろん入院期間Ⅱ超えは極力少なくしますが(例えば、予定入院で20%未満、緊急入院でも40%未満などの目標を立てる)、一方では、余りに短期の入院では出来高に比較して収益が低過ぎる(投入した医療資源を回収できない)場合があるので、症例により入院期間Ⅱ(満期日)を目安に退院日を考えるのも一法です。これらを含めDPCのさまざまな仕組みを医師はもとより、看護師始めメディカル全てに周知する努力が必要と考えます。
43	5-(3)	病床の効率運用	医療経営の意識の浸透には時間がかかるが、今年のように医療機関が危機的状況になることを回避するためには、戦略の浸透や数値の認識は必須のものである。さらに努力されたい。
44	5-(4)	クリティカルパスの推進	クリティカルパス見直しは非常に重要ですが、その際、DPC入院期間を考慮することが望ましいと考えます。
45	5-(5)	材料費の適正化	現在の医療制度では、高度急性期・急性期医療を行うと材料費が増加することはやむを得ない面があります。材料費の適正化の努力はもちろん必要ですが、医療センタークラスの病院で行っている医療の内容を考えるとある程度の支出は仕方がないと思います。
46	5-(7)	広報体制及び広報活動の強化	市民への医療情報提供で公開講座の実績が不明?
47	5-(9)	医師の事務負担軽減	医師の働き方改革への取り組みや上位施設基準の取得などの点からも重要な課題と思いますので、是非推進して頂きたいと思います。
48	5-(9)	医師の事務負担軽減	チーム制への移行等の成果は、特に今年表面化するであろう。当該手段により、効率化されるか、医療崩壊を防げるのか、今年の状況を見ていきたい。民間企業では、ワークライフバランス制度は今年度は新たな段階に入っている。今年は様々な新たな発想が必要になろう。

管理用 連番	施策 番号	施策	ご意見・ご指摘内容
49	5-(11)	未収金対策	未収金の発生率、金額等実態がよく分かりませんが、地道な努力を積み重ねられますよう期待しております。
50	5-(12)	入退院支援センターの充実	入退院センター導入後のコスト・効率化の評価が必要

<東松戸病院>

管理用 連番	施策 番号	施策	ご意見・ご指摘内容
51			全体的に病院が取り上げるべき戦略に難点があると思える。さらに病院戦略は各科戦略へと展開すべきと思います。
52			当該医療関係者が、コロナ禍の中で、健康を損なうことなく、無事に1年を過ごせ、業務を遂行できることを期待しています。令和2年度は、数値目標よりも安全に1年を過ごせることを祈っております。
53			特に意見はございません。 各セクション別に取り組項目を定め、評価とともに目標達成に努力されておりますことに感謝いたします。
54			福祉医療センター全体については、経営計画の内容よりも将来的に事故等を危惧しています。経営改善では補えないものと考えています。
55	1-(1)	予防医療の活動	そもそもドック・検診体制の減少がある中で、今後どのように予防医療に取り組んでいくのか明確なビジョンを示すべきである。
56	1-(1)	予防医療の活動	検診医療の事業は、医療と違い相当の営業活動を必要とし、利用者を待っているだけでは利用者の増加はない。
57	1-(1)	予防医療の活動	外来診療日の見直し、常勤医師数の減少に伴っているのかもしれませんが、人間ドック、予防接種の件数が減少しているのは残念な結果です。人間ドックは営業活動が重要なので引き続き頑張ってください。病床稼働率低下は医師不足でいたしかたない面もあるかと思っておりますので、医師が少ないのであれば稼働率の目標も下げざるを得ないのかもしれませんが、しかしながら、一方では引き続き医師確保に努めていただければと思います。
58	1-(1)	予防医療の活動	人間ドック数確保の具体的対策、更なる活性化が必要
59	1-(1)	予防医療の活動	人間ドック等は、真水の収益ともいえるものです。なんとか実績を上げて頂きたいと思っております。
60	1-(1)	予防医療の活動	予防医療については、前年実績から見て目標設定に無理があったのであろう。当該分野は民間とも競合するため、PR活動や団体への個別の働きかけ等さらなる工夫が必要であらう。
61	1-(1)	予防医療の活動	人間ドックの検査件数は目標値(133)に達していないが、外来診療日を減らしたにもかかわらず、前年比較で増加しているので、評価は「△」で良いと思います。
62	1-(1)	予防医療の活動	予防接種の件数については、前年度比較10件増、379件の実績で、目標達成率62.2%と低い数値となっているが、目標値が適正でないのではないのでしょうか。
63	1-(2)	病床管理	限られた人的資源で効率的な病床運用を図るべきである。
64	1-(2)	病床管理	病床稼働がkey。医師の確保
65	1-(2)	病床管理	総合医療センター、梨香苑との連携の充実を求めます。
66	2-(2)	意識改革	職員一人ひとりの経営意識の醸成を行う策として、所属長への説明だけでは、職員の意識改革とまで至らないと思われます。
67	3-(1)	医療従事者による事例研究・発表・意見交換	医師確保のためにも、学術的な活動を推進することが重要
68	3-(1)	医療従事者による事例研究・発表・意見交換	年度終盤は新型コロナ騒ぎでやむを得ない面があったと思いますが、次年度のご検討をお願いいたします。

管理用 連番	施策 番号	施策	ご意見・ご指摘内容
69	3-(1)	医療従事者による事例研究・発表・意見交換	年度末の開催が望ましいのか再度検討されたい。年間で最も時間が空けられる時期を選ぶことや、すべてを同時に実施せずに各局個別に実施する等の考慮が必要であろう。
70	3-(1)	医療従事者による事例研究・発表・意見交換	想定外の新型コロナウイルス感染拡大事態により実績値が上がらなかったことは仕方がありませんが、色々なことを想定し、実施の計画を半期に1度ずつなど分散してはいかがでしょうか。
71	4-(1)	ワークライフバランスの向上	看護職等への研修が重要かと思われます。
72	4-(1)	ワークライフバランスの向上	ワークライフバランスは、研修よりも実態分析とその対応策ができた後に、それを研修で周知し、目標達成を図るものであろう。
73	4-(1)	ワークライフバランスの向上	働き方改革関連法の施行で、職員がやりがいを持って働き続けられる職場環境づくりが求められています。WLB(ワークライフバランス)は職員自らが取り組むことが必要だと思いますので、早期に研修を開催することを望みます。
74	6-(1)	委託業務仕様の見直し	業務改善と効率化は全くすすんでいない。
75	6-(1)	委託業務仕様の見直し	なかなか大変と思いますが、ご努力をお願い致します。
76	6-(1)	委託業務仕様の見直し	東松戸病院の現状を見ると、業務改善と効率化の観点はなかなか困難であろう。むしろ今年はかなり経費の増加が見込まれるであろう。小さな努力を1つ1つ実施していることを今後評価したい。
77	6-(2)	同種同効品への切替え	業務改善と効率化は全くすすんでいない。
78	6-(2)	同種同効品への切替え	新型コロナ騒ぎで仕方がなかったと思います。
79	6-(2)	同種同効品への切替え	東松戸病院の現状を見ると、業務改善と効率化の観点はなかなか困難であろう。むしろ今年はかなり経費の増加が見込まれるであろう。小さな努力を1つ1つ実施していることを今後評価したい。

管理用 連番	施策 番号	施策	ご意見・ご指摘内容
80			全体的に病院が取り上げるべき戦略に難点があると思える。さらに病院戦略は各科戦略へと展開すべきだと思います。
81			当該医療関係者が、コロナ禍の中で、健康を損なうことなく、無事に1年を過ごせ、業務を遂行できることを期待しています。令和2年度は、数値目標よりも安全に1年を過ごせることを祈っております。
82			特に意見はございません。 各セクション別に取り組項目を定め、評価とともに目標達成に努力されておりますことに感謝いたします。
83			福祉医療センター全体については、経営計画の内容よりも将来的に事故等を危惧しています。経営改善では補えないものと考えています。
84	1-(1)	キレイのないケア	東松戸病院との良い連携ができていているように思います。施設利用率をさらに上げるための一層の連携を期待したいと思います。
85	1-(1)	キレイのないケア	総合医療センター、東松戸病院との連携の充実を求めます。
86	2-(1)	通所利用者の拡大	東松戸病院との良い連携ができていているように思います。施設利用率をさらに上げるための一層の連携を期待したいと思います。
87	2-(1)	通所利用者の拡大	施設の運営に努力されている点は評価できるが、今後、他の施設との差別化を図れるような、さらなる特徴(アピールできる点)を見出せるようにしてほしい。現在、公共施設を含めて「サード・プレイス」という言葉が良く使われる。コロナの中で利用者にとって「サード・プレイス」となりうるにはさらにどの点を工夫すればよいのか検討されたい。
88	2-(2)	施設利用率、在宅復帰率・回転率の維持	東松戸病院との良い連携ができていているように思います。施設利用率をさらに上げるための一層の連携を期待したいと思います。
89	2-(2)	施設利用率、在宅復帰率・回転率の維持	利用率上昇に向けての具体的対策の立案
90	2-(2)	施設利用率、在宅復帰率・回転率の維持	施設の運営に努力されている点は評価できるが、今後、他の施設との差別化を図れるような、さらなる特徴(アピールできる点)を見出せるようにしてほしい。現在、公共施設を含めて「サード・プレイス」という言葉が良く使われる。コロナの中で利用者にとって「サード・プレイス」となりうるにはさらにどの点を工夫すればよいのか検討されたい。
91	2-(2)	施設利用率、在宅復帰率・回転率の維持	施設利用率については、目標達成率が90.5%前年度比も△9.7%で、自己評価は「△」とされていますが、東松戸病院との連携の向上も図っていただければ改善すると思えます。
92	3-(1)	介護従事者による事例研究・発表・意見交換	スタッフ教育が意欲を上げ、維持することにつながる。on lineでも可能
93	3-(1)	介護従事者による事例研究・発表・意見交換	新型コロナ騒ぎで仕方がなかったと思います。
94	4-(1)	ワークライフバランスの向上	チーム医療実践のための環境づくり
95	4-(1)	ワークライフバランスの向上	働き方改革関連法の施行で、職員がやりがいを持って働き続けられる職場環境づくりが求められています。WLB(ワークライフバランス)は職員自らが取り組むことが必要と思えますので、早期に研修を開催することを望みます。
96	5-(1)	専門性を高めたサービス提供	チーム医療実践のための環境づくり